

言語能力を統合して解決する問題① 社会科

1 問題作成の意図

社会科の問題は、大問1、2から成り、3・4年生が地理的内容、5・6年生が環境問題の内容を題材としている。見取る言語能力として、①資料から情報を適切に読み取る力、②情報を比較し読み取る力、③読み取った情報を基に自分の考えを表現する力、の3種類を設定した。

3～6年生の全ての学年で①～③の力を見取れるようにした。大問1・2ともに記述式問題で、大問1は資料から情報を適切に読み取り、理由を述べる問題、大問2は資料を比較しながら考えたことを根拠や理由を明確にして説明する問題である。大問1は①③の力を、大問2は②③の力を見取れるようにした。

2 調査結果の分析

表1 各学年問題別解答集計（6月・2月） 単位：%

	大問1				大問2			
	○正答		△一部正答		○正答		△一部正答	
	6月	2月	6月	2月	6月	2月	6月	2月
3年 紙紙	25.5	●47.1	25.5	21.6	41.2	●52.9	27.5	35.5
3年 ICT紙	20.4	○38.8	32.7	28.6	22.4	●53.1	44.9	34.7
4年 紙紙	58.8	58.8	20.6	11.8	38.2	44.1	5.9	50.0
4年 ICT紙	28.6	○45.7	11.4	14.3	31.4	40.0	14.3	37.1
4年 ICTICT	24.2	●45.5	33.3	3.0	18.2	●42.4	24.2	33.3
5年 紙紙	54.3	51.4	37.1	11.4	31.4	28.6	37.1	57.1
5年 ICT紙	58.8	○73.5	26.5	17.6	17.6	○44.1	55.9	50.0
5年 ICTICT	48.6	40.0	22.9	14.3	2.9	○28.6	37.1	51.4
6年 紙紙	67.6	○79.4	17.6	8.8	29.4	38.2	41.2	52.9
6年 ICT紙	32.4	●61.8	41.2	14.7	35.3	●55.9	50.0	23.5
6年 ICTICT	61.8	61.8	23.5	55.9	32.4	○44.1	38.2	55.9

※ゴシック体は同項目最下位より10%以上高い値。6月より10%以上差異がある値は○か△、20%以上なら●か▲

(1) 提示／解答方法の「言語能力」への影響

ゴシック体部分に注目する。社会科の資料の読み取りは、大事なところに鉛筆で線を引いたり、マークを入れたりと着目点を強調することが多い。そのため、調査前は資料に書き込みが可能な「紙＋紙」が高くなると予想していたが、全学年では明確な有意差は見られなかった。ただ、3・4年生は「紙＋紙」の正答率が高く、資料から情報を適切に読み取り、自分の考えを表現する方法としては、児童の発達段階からも回答しやすかったと推測できる。

記号に注目する。本校では、3年生以上から年間を通してパソコンに接する機会が徐々に増えていた。授業中に用いることも増え、この半年間でのICT技能は高まったと考える。そのため、調査前は2月時点でICTに関係する調査方法が大きく伸びると予想していた。実際、どの学年でも「紙＋ICT」「ICT＋ICT」の伸びが多く、特に高学年にはその傾向が見られる。

(2) アカデミック・ライティングで指導可能な言語能力の変化

①情報を読み取る力については、どの学年においても横ばいもしくは向上が見られた。特に3・4年生で向上が見られた。この力は社会科中学年における地域に関する地図や資料に、年間を通して多く出合い、見方・考え方が養われた結果だと考えられる。②情報を比較し読み取る力についても同様なことが言える。③読み取った情報を基に自分の考えを表現する力に関しては、大問1・2ともに正答率と一部正答率を比較すると正答率が向上し、一部正答率が少なくなっている傾向も見られ、自分の考えを伝える表現する力が高まっているとも考えられる。